

エチオピアでは人口の8割以上が村落部に居住しています。ところが、水の利用について見ると、給水率^{*1}は44%で、サブサハラ・アフリカ地域の平均給水率である64%を大きく下回っています。エチオピアの人々にとって、水を利用することは、たいへんな労力と時間がかかり、貧困の削減を妨げる一因となっています。それだけに安全な水の確保に携わる技術者を育成し、より多くの人々が安全な水を利用できるようにすることがとても重要です。

日本は、1998年から15年間エチオピア水技術センター(EWTEC)^{*2}に対して技術協力を通じて、常設研修コースの設立・実施、センターの運営のための支援を行い、特に技術指導者の育成に力を注いできました。1998年から2005年の間は日本人専門家が中心となって研修を実施し、2005年から2008年の間には徐々にその役割をエチオピアのカウンターパート(相手側の同等の役割の人)へ移行していき、最終的(2009～2013年)には大部分の研修コースをエチオピア側が独自で実施できるようになりました。

その結果、EWTECでは、これまでエチオピアの政府機関、民間企業、職業訓練校などから通算で3,500名を超える研修生を受け入れ、今やエチオピアの各地で卒業生が活躍しています。また、周辺のアフリカ諸国(18か国)の技術者を対象とした国際コースの研修も実施し、エチオピア国内にとどまらず、広くアフリカ諸国の地下水技術者育成にも貢献しています。

その成果が認められ、2013年8月、EWTECは国立の水技術学校(EWTI)^{*3}として承認され、名実ともに水分野の技術者育成の中心的な機関としての地位を確立しました。今後、新組織EWTIとしてエチオピアの水分野のさらなる発展へ寄与し、さらに多くの人々が安全な水を利用できるための重要な役割を担っていきます。

※1 安全な水を供給している割合。

※2 Ethiopian Water Technology Centre

※3 Ethiopian Water Technology Institute



地下水モデルコースの野外実習の様子。地図を見ながら、授業の習得成果を確認。適切な地下水モデルの立案は、効率的な井戸掘削に必要不可欠(写真: JICA)